

中国自動車部品企業の省エネルギー推進に向けた実態調査に係る調査研究

(報告書の概要)

本調査研究では中国自動車部品企業成長に伴い省エネルギー化が促進された場合、日系自動車部品企業に与える影響を以下の内容を調査・分析することを目的としている。

中国自動車部品産業は、国内自動車生産が過去25年間で32倍の890万台へ拡大したことを背景に、売上事業規模が2,600億元を突破した。今後も自動車生産・輸出規模の継続的拡大、製品の近代化に伴う付加価値の増大とともに中国自動車部品産業の発展が見込まれる。第11次5ヵ年計画で、中国政府は2010年までに世界の部品製造基地となる基礎を築くことを目標としている。このことは世界大手自動車部品企業にとって事業拡大のチャンスとなるが、中国自動車部品企業にとっては厳しい競争時代の始まりを意味している。

本報告書では中国民族系自動車部品産業の状況と、省エネの実態を現地調査することにより調査・分析している。更に、日本の省エネ設備装置産業による機器導入による中国自動車部品企業に対する省エネ効果と、導入に伴う日本の自動車部品企業に与える影響（技術向上、日本企業にキャッチアップする時期等）について明らかにしている。

(報告書の主要構成)

- (1) 中国民族系自動車部品産業の状況
- (2) 中国民族系自動車部品企業の省エネ実態調査
- (3) 中国自動車部品企業の省エネ促進による日本の自動車部品企業に与える影響
- (4) 日本の省エネ設備装置産業による省エネ効果と与える影響調査